

## 第6回アカデミー・プレジデント会合の概要

### *Academy of Science Presidents' Meeting*

日 時：平成 25 年 10 月 7 日（月）14：30～16：30

（平成 25 年 10 月 6～8 日の第 10 回 STS フォーラム期間中に開催）

場 所：国立京都国際会館（ルーム 104）

主 催：日本学術会議

参加者：21 名（1 国際学術団体・17 か国）

（内訳）IAP、チェコ、ドミニカ、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イラン、イスラエル、日本、韓国、ラトビア、ポーランド、スロバキア、南アフリカ、スイス、英国、米国

共同議長：大西隆 日本学術会議会長

Ruth Arnon イスラエル科学・人文アカデミー会長

#### 〔討議テーマ〕

##### *Human Resource Development/ Promotion of Young Scientists*

#### 〔概要〕

冒頭、共同議長から発言があった。まず日本学術会議の大西会長より、今回のテーマ「若手研究者の育成・養成」の選定経緯・趣旨及び若手研究者をとりまく日本の現状が簡単に紹介された。続いてイスラエル科学・人文社会学アカデミーの Arnon 会長から、イスラエルにおける科学方面の人材育成の特徴・課題が述べられた。その中で、設立 1 年程になる若手アカデミーについても紹介された。

出席者全員の簡単な自己紹介の後、イントロダクションとして日本学術会議より、日本の若手研究者育成の現状と若手アカデミーの創設（春日副会長）、日本学術会議内での若手アカデミー活動状況（駒井若手アカデミー委員会委員長）及び GYA（グローバルヤングアカデミー）の活動状況（狩野若手アカデミー委員会副委員長）について、報告を行った。

続いて、各国よりそれぞれの国の若手研究者育成等の現状・課題について発言があった。全体をまとめると以下のような議論がなされた。

(1) 若手アカデミーを組織として形作っている国と、特にそうした組織を設けずに、別

の形で若手育成支援を行っている国があり、個々の国の様々な実情を反映していること。

- (2) 若手育成に関しては、教育段階（初等教育—中等教育—高等教育）でいかに科学者を作り出していくかという課題を有していること。
- (3) ほぼ全ての国において、科学の変化等の事情を背景に、博士課程やポストドクター段階での給与面を含めた安定的な待遇・処遇を用意できていないという課題を有しており、それが若手育成にあたり、一つの大きな壁となっていること。
- (4) 国によっては、若手科学者の育成や処遇に寄与するプロジェクトやスキームを有しており、参考になるかもしれないこと。

各国が一回り発言をした後、IAP の Hassan 共同議長より、中国で開催されるサマーダボスに若手研究者を参加させる活動や GYA の活動支援、さらに TWAS（第三世界科学アカデミー）における若手研究者の活動について紹介があった。

続いて、25 分程度のフリーディスカッションが行われ、若手のキャリア形成支援策（ポストドク研究者に対して、研究専門家としてのキャリアを諦めた場合の社会認識、キャリア選択肢提供の観点）、若手科学者のミスコンダクト（ジャーナル掲載へのプレッシャーからの論文偽装など）、ヤングアカデミー活動の利点などが議論された。

最後に、共同議長であるイスラエル科学・人文社会学アカデミーの Arnon 会長より総括として、若手アカデミーの組織の有無にかかわらず、ここに集まった全てのアカデミーが、若手研究者の重要性を認識し、様々な方法で鼓舞し、支援しようとしていることがわかった。若手に対し、科学者の責任を伝承していくことも重要であるという共通認識があったと思う、との趣旨の発言があった。

(以上)